

# 「女性の視点からの防災対策」

大切な人と暮らしを守るために日ごろの備えをしていますか？

なでしこ防災ネット

H21. 2. 14

# 今年度の活動

## 目標

- 家庭や地域に密着している女性の防災力の向上から災害に強いまちづくりを目指す。

## 活動内容

- 体験型イベント、防災講演会の実施
- 防災コミュニティサロンの開催
- 女性の視点からの防災教材の作成

# 活動の視点

避難所＝  
設営体験

住む場所

衣食住を確保する

食料品の確保

＝田植え  
植樹  
家庭菜園  
非常食

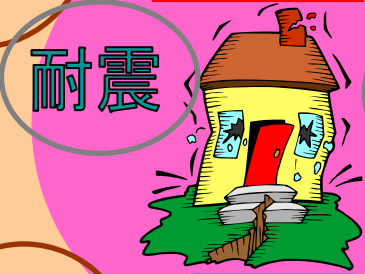
誰かを助ける

三角巾を＝  
利用した  
応急手当

応急  
処置

地域の  
輪

命を守る



耐震

家具の  
固定

電気

医療

水道

育児

救助  
方法

知識の  
普及

搬送  
訓練

ガス

講演会、講習会、リーフレット作

介護

＝サバイバル  
Dayキャンプ

洗濯  
清掃

# サバイバルディキャンプ

- ① 日時 6月8日(日) 9:00~16:00 荒廃地  
対象 親子 48名参加  
活動内容 かまど作り、大釜でごはん炊き、あるものカレー作り、テント作成、トイレ作成、たけのご掘り、三角巾を使った応急手当  
講習 もしも・・・の時のために「安全な場所へ避難・移送する方法」
- ② 日時 7月6日(日) 9:00~16:00 畑  
対象 高齢者・障害者 57名参加  
活動内容 家庭菜園野菜カレー作り ブルーベリーの植樹  
ミニ防災講演会 「我が家の防災対策」「家庭で療養している人のための防災対策」
- ③ 日時 7月27日(日) 9:00~16:00 荒廃地  
対象 中学生・高齢者 50名参加  
活動内容 避難所設営訓練 ガイドヘルパー体験  
ミニ防災講演会 「我が家の防災対策」「災害伝言ダイヤル171」
- 成果 日ごろの活動を積み重ねた結果、多くの問題や課題が発見でき、その成果をリーフレットにまとめることができた。

# サバイバルDayキャンプ

自分が被災者にならない努力  
「興味をもち」「知ること」から。  
そして「身近にできること」から

① かまど作り



残念ながら  
ご飯は芯が...



② 炊き出し訓練



立ち木、生木を利用して

小学生も一緒に



③ テント貼り



④ サバイバルDay  
キャンプ

2008年防災教育チャレンジプラン  
最終報告

# 搬送訓練、応急手当、避難所設営体験の様子

搬送訓練



中学生避難所  
設営体験

三角巾を使用した  
応急手当



簡易トイレの作り方

2008年防災教育チャレンジプラン  
最終報告

# サバイバルティキャンプからの意見（アンケート結果）

## ヤングママからは

- ・母親が慌てると子どもや老親は不安が増徴する。
- ・母親がパニックになったら乳幼児は助けられない
- ・母親がパートに出て家が空、発災時、子どもや高齢者はどうなるのだろう
- ・高齢者は作業を進めていくが若い人たちは何をしてもよいのか分からない
- ・在宅療養者のイメージがわからないから、助けに行っても役に立つか自身がない。
- ・障害者のみの場合は障害の度合いや状態が分からないので支援が難しい
- ・今日のサバイバルキャンプで、初めて防災のことを意識した。

## 中学生からは

- ・大きな地震を知らないなので、誰がどのように困っているか、何をすればいいかわからない。
- ・防災のことをほとんど知らなかった。知らなくてもいいと思っていた。でも参加して関心がわいた
- ・赤ちゃんがいつ生まれるかわからない妊婦さんは不安だろうと思った。
- ・避難所で、人がいやがる仕事を進んでやったり、力を発揮したり出来る人が何人いるだろう。
- ・体験したことを同級生に伝えたいが、理解してもらえないかわからないので友達と参加する。
- ・中学生にもできる活動があることがわかった。

## 高齢者からは

- ・マッチを使えない若い人が多いのでびっくりした
- ・長年、介護をし、地域との交流がなかった。多くの人と知り合い、搬送方法や応急処置などを体験できてよかった。
- ・地域の状況をよく知っている、中学生は災害時に強力な戦力として期待できる。  
高学年の小学生の方が大人より力がある  
世代を超えた訓練や交流ができたことはよかった。
- ・有意義な時間でした。民生委員として地域に目を配り、時を逃がさず対応したい。

# コミュニティサロンからの意見

## 発災時にはどうなっていますか？

- ・支援が必要な人は、利用していたホームヘルパーを引き続き利用できるという仕組みは
- ・ホームヘルパーが被災した場合、代替りのホームヘルパーは
- ・避難所まで搬送してもその後の支援体制は（布団・収容場所・病院など）
- ・いざというときの災害時要援護者名簿は役立てれるか
- ・医療、介護事業者が相互に助け合える体制作り、介護支援体制を継続する必要性があるのでは
- ・妊婦・産婦にも同じように支援体制を

## それぞれの役割は

### 援助を要する方は

- 自分たちでできる防災対策に取り組む
- 防災訓練などの地区活動に参加する
- 日ごろから地域の人たちとの交流を大切にする

### 隣近所など地域の方は

- 普段のお付き合いを大切にする。隣近所との協力体制を話し合う。
- 地域のお年寄りや支援の必要な方と交流を図り、遠慮なく支援を申し出てもらうように伝えておく



# 防災講演会

秦野市、はだの市民が創る男女共同社会推進会議、秦野市危険物安全協会との共催

H20年10月4日(土) 48名参加 31枚アンケート回収  
「わが家の防災」「災害用伝言ダイヤル171」「秦野市の地震対策」



手話通訳付き



H21年1月17日(土) 430名参加 192枚アンケート回収

手話録画



点字冊子作成



テーマ「地域における男女協働の自主防災対策」  
自主防災事例発表:2自主防災会  
なでこの防災啓発活動展示  
非常食コーナー  
防災用品の展示と説明  
リーフレットを公開(点字版も)

2008年防災教育チャレンジプラン  
最終報告

# 家庭での日頃の備えや発災後の衣食住の確保などを中心とした 女性の視点からのリーフレット作り

防災コミュニティサロン  
連携団体  
行事参加者  
男女共同参画  
市役所防災課

講演会  
勉強会  
体験型イベント  
サバイバル体験

編集会議  
4~8回/月

リーフレット

点字リーフレット  
手話録画



(観音開き折)



## いつ起こるか分からない災害に備えて

つらい避難生活、一変してしまった街並み、このような状況に自分が置かれたとイメージしていただければ、自ずと何をすべきか見いだすことができるでしょう。

家の耐震補強、家具の固定などをすぐやらなければならないことはたくさんあります。

訓練に参加したり、防災に関する知識や技術の習得をしたり、みんなで助け合って家族と地域を守る備えが必要です。一人ひとりの防災対策が街を強くします。一人の力は小さくても、地域で力を合わせれば、計り知れない力となります。

だから、

### ①女・男がともに支え合う地域づくり

男女が共同して災害復興に対応できるよう、常日常から家庭や地域、職場などで男女共同参画を実施しましょう。



### ②防災・災害復興の分野への女性の参画推進

災害時には、防災・災害復興対策や方針決定の場、防災組織、自治会などへ積極的に参画し、地域の防災力の活性化を図りましょう。男女共同参画基本計画でも、

防災分野での女性の参画が重視されています。

防災運営委員会



### ③防災訓練・学習会などの積極的開催と参加

日頃の備えと訓練で、災害の共通認識を持ち、誰もが慌てずに行動できるようにしましょう。



我が家の防災メモ			
火事・救急 119 警察 110 災害用伝言ダイヤル 171			
氏名・住所・TEL			
連絡先	電話番号	連絡先	電話番号
市区町村		電力会社	
消防署		水道局	
警察署		病院	
ガス会社		薬局	
家族の連絡先と役割			
家族の連絡先名前	連絡先(学校・勤務先)	電話番号・携帯番号	役割分担
家族のデータ			
名前	生年月日	血液型	アレルギー、持病、常備薬、主治医など
避難場所			
一時避難場所			
広域避難場所			
家族の集合場所			

※薬の袋には薬剤名、用量、服用方法を記入  
※母子手帳、メガネ、義歯、補聴器、杖などをわかる場所に

警戒宣言が発令されると

東海地震強化地域内では、次のような対応がとられます

電気・ガス・水道→供給は継続  
鉄道→原則として最寄りの駅まで運転し、以後運転中止  
小田急小田原線は相武台駅以西で運転中止  
バス・タクシー→運転中止  
病院→耐震性のある病院は診察継続  
学校機関→児童・生徒は状況に応じて保護者に引渡し  
電話→一般利用が制限  
道路→強化地域内への進入制限  
金融機関→ATMは営業継続。窓口は可能な限り継続  
コンビニなど→耐震性のある店舗は可能な限り営業



制作・発行 2009年1月 なでしこ防災ネット  
2008年 防災教育チャレンジプラン

保存版

## 女性の視点からの 防災対策

大切な人と暮らしを守るために  
日ごろの備えをしていますか？



このリーフレットは、  
男女が共に支え合い助け合える地域、  
防災体制づくりに向けて、  
「防災・災害復興の担い手としての女性」  
「災害の被害を受けやすい女性」の  
立場から日ごろの備えと工夫について  
まとめたものです。



なでしこ防災ネット

## なぜ、女性の視点から？

**女性の肩に** 母親が慌てると子供や老親は不安が増長する。  
母親がパニックになったら乳幼児は助けられない。  
ライフラインの新館→片付けや水、食料、燃料の確保  
保育所、学校、ディサービス施設の閉鎖→子ども、  
お年寄りの世話、夫は職場の復興が優先

### 防災、災害復興の担い手と災害被害者の両面を持つ女性

#### ①防災・災害復興の担い手

日頃、家にいるのは多くは女性。出社して不在の男性陣。待たなしの救助活動。家庭・地域の情報通である女性の力や役割は非常に大きい。

さまざまな地域活動に日頃から地道に取り組んでいるからこそ発揮できる力、期待される力があるのです。

#### ②災害時に被害を受けやすい

阪神大震災後、女性たちがこんなことを語っていました。プライバシーの侵害、「男は会社、女は家庭」という意識偏重、不当解雇、パートの大量解雇・難題・性暴力・児童虐待・障害者や母子家庭への支援などは後回し。

### 女性の視点でも検討しよう

女性が日中パートに出て家が空  
免災時、子供や高齢者は？



高齢者や妊産婦さんや  
乳幼児の食事や健康は？



家族で防災会議  
役割分担は？

防災用品選び、女性、  
赤ちゃんの必需品は？



避難所の着替え  
トイレは安全？



災害時に被害を受けやすい女性に配慮した支援、  
高齢者・子ども・障害者などの立場での支援も必要です。

# 地震発生！ そのとき そのあと

「命を守る時間」、「誰かを助ける時間」、「衣食住を確保する時間」の順に時間が経過します

3秒

## 地震だ！



- 落ち着いて
- 自分を守る

3分

## 揺れがおさまった



- 火の始末
- 逃げ道の確保
- 家族の安全確保
- 受話器の確認
- ラジオで情報を得る
- 余震に注意

3時間

## みんな無事か？



- 近所で助け合う
- 塀に近づかない
- 子どもを迎えに
- ブレーカーを切る
- 玄関にメモを貼る

3日

## 無理はしない



- 水、食料は備蓄で
  - 情報の収集を
  - 譲り合いの精神で
- 阪神・淡路大震災後のライフラインの復旧日数は
- 水道 90日 都市ガス 84日 電気 7日

## 我が家の安全点検をしよう



## 知っ得！ 知ってて安心、こんなときはこんな対応

安心は日ごろの備えと助け合い

- 非常袋は旅行に行くつもりで中身を用意
- 脱衣所にはバスロープを。裸では避難できない
- 非常用備蓄は家、物置、職場、車のトランクなどに分散
- 防犯ベルで助けを呼ぶ

- 飲料水は傷口の洗浄、火傷の初期手当などにも
- ストッキングは名帯、紐、防寒として
- ラップは傷口をおおったり、食器にかぶせ防水にも

- 電子レンジは食料、腐乳食の解凍や温めの他にタオルを温め、病人、高齢者、赤ちゃんのお尻拭き・清拭にも
- 物干し竿2本と上着、毛布、シーツで担架に

## なでしこ防災ネット イベント参加者のかきこい防災



青文字はなでしこ防災ネットの活動です

- 使い捨てカイロは体も、レトルトも温める
- 保存用ビニール袋と輪ゴムでご飯が炊ける（米1合：水1.3）お湯の中に入れ、2.5分間沸騰させる
- 食料確保は植樹・家庭菜園（ペラング、庭先） 山菜、野草で

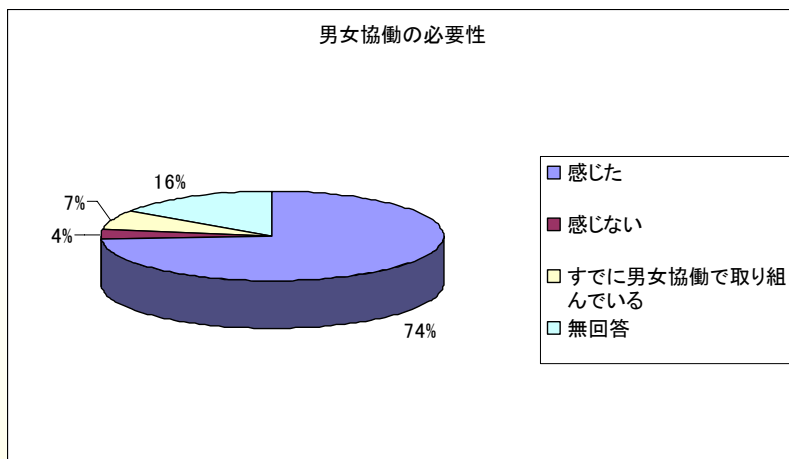
- 家具の置き方を変えることで転倒防止
- テーブルは強度なものを
- 揺れがおさまったら、タンスの最下段の引き出しを前に出す
- 転倒防止家具のキャスターはそれぞれ異なる方向に向けておく
- 開き戸の固定は輪ゴムでもOK
- 家具と天井の間に段ボール箱や発砲スチロールを入れ転倒防止
- 食器棚の中は乱積みせず整理整頓し、開き戸は補助器具をつける。棚板には滑止めシートや布巾を敷くと安心

- 風呂水は生活用水、洗濯、水洗トイレに使用
- ブロック2～3個で簡易かまど
- 買い物用ビニール袋を水バケツやトイレ、中央部に穴をあけ、レインコートに
- 井戸水、湧き水の場所の確認

防災に「興味をもち」「知ること」から。そして「身近にできることから」始めてください

## 講演会アンケート感想

### 男女協働の必要性 アンケート結果



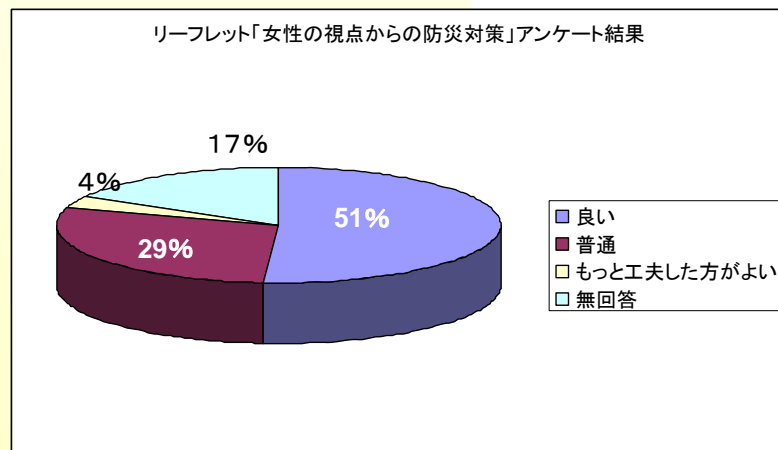
430名参加 192枚アンケート回収

- ・内容が具体的で分かりやすかった。
- ・緊急時には何が必要かがよく分かった。

### 男女協働の必要性について

1. 感じた 全体の74% (回答数142)
2. 感じない 全体の4% (回答数7)
3. すでに男女協働で取り組んでいる 全体の7% (回答数13)
4. 無回答 全体の16% (回答数30)

### リーフレット アンケート結果



### リーフレットについての意見

- 内容は分かりやすい
- 字が小さくて読みづらい
- 集合体(マンション)等も視野に
- 高齢者、幼児、子供、障害者を含めた内容に
- 初期消火活動の着手

## 苦勞した点、工夫した点

- ・リーフレット作成メンバーが防災について知識不足だったため、一から勉強してのスタートだった
- ・女性の視点、男女共同参画の視点
- ・点訳、手話通訳・録音の録画とDVD編集依頼
- ・活動資金を最小限に、最大の効果を得るために多くの団体、行政と協働で開催

## 他団体、地域との連携

- ・連携10団体と知識の習得、技能の向上など、スキルアップを図った。
- ・得意分野をいかした活動
- ・講師依頼は相互協力
- ・フォローしあいながらの実践
- ・コミュニケーションをはかり、日常的に協力し合える体制作り

## 成果

- 防災講演会では約500名、験型イベントでは150名を超える参加
- 口コミで参加者が増えた
- 地域の協力者が増えた(場所や材料の提供)
- スタッフの成長
- 多種多様な10団体・行政との協力体制ができ、活動が強化
- 普及、啓発活動が地域で受け入れられてきた。
- 女性の視点での防災の輪が広がりつつある。

## 今後の活動

- ・作成したリーフレットを活用し、家族の防災力の向上から災害に強い社会作りを目指す。
- ・家族構成にあわせた非常食メニュー 作り
- ・女性の視点からの帰宅困難者防災マップ作成

秦野市役所防災課や連携団体、地域の協力の おかげで円滑に事業を遂行することができました。  
今回の活動に協力していただいた皆様に感謝いたします。  
本当にありがとうございました。